

第1回福岡市子ども読書活動推進計画策定検討委員会 議事録

日時	平成28年8月9日(火) 15:30~17:00
場所	福岡市役所 302会議室
出席者	別紙のとおり
議題	子ども読書活動推進計画(第3次)の策定について
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	なし

1 開会

(1) 事務局挨拶

教育支援部長挨拶

事務局	※傍聴要領について説明(内容は省略) (委員からの質問なし)
事務局	※福岡市子ども読書活動推進計画策定委員会について説明 (内容は省略) (委員からの質問なし)

(2) 各委員の紹介(団体紹介)

2 委員長・副委員長の選出

3 協議

(1) 福岡市子ども読書活動推進計画(第3次)の策定について

委員長	事務局より説明を
事務局	※第2次計画の成果と課題について説明(省略) ※第3次計画の策定について説明(省略)
委員長	これについて何か質問はないか。
委員	まず、学校図書館支援センターは非常に効果的であった。学校

の授業で本を取り入れる際に非常に力になっている。学校図書館のレイアウト等についてもアドバイスをもらっており、今後の支援の継続をお願いしたい。

現在、勤務している小学校の図書室について、面積が非常に狭く、児童の数から考えると環境面で整備が不十分と感じている。蔵書が収まりきれないという問題もある。新しく図書館を整備する際には児童の数や蔵書が収まるか等にも配慮が必要である。

事務局

その点は担当部署に伝えていく。

委員

第3次計画の中に、学校における「子どもの読書活動の実態把握」とあるが、これはどのような調査を想定しているのか。

事務局

現時点では質問項目までは考えていない。第2次計画の成果と課題をまとめていく中で、子どもの読書離れの原因はなにか、明確な答えが得られなかったことを踏まえ、まずは、しっかりと実態把握を行う必要があると考えたもの。

委員

現状の中学生の日常を考えると本を読む時間を作るのは難しい。部活もあり、授業もあり、図書館へ行く時間を確保することは難しい。昼休みに図書館を開けるためには教員の手が必要になるが、人手不足は否めない。司書教諭といっても通常担任をもっており、図書館運営に十分に時間を割くことは難しい。そういった運営上の問題なども十分に調査してほしい。

委員

総合図書館には移動図書館車がある。現時点では図書館から距離のある場所を中心に回っているが、今後、運用次第では、学校などを訪問し、疑似図書館体験を行うことも可能。

委員

学校司書の立場から。以前は1人で2校担当、2年間の勤務となっていた。そのため、計画を立ててしっかり生徒と向き合うことができたが、現在の配置では1人で4校を担当し、1年間の勤務となっている。確かにたくさんの学校に行くことができ、学校の現状把握ができるが、年間の計画を立ててしっかりと生徒と関わっていくには現在の配置では難しいと感じるため、以前の配置の方がよかったと感じることもある。学校側はどのよ

うに感じているか意見が聞きたい。

委員

理想を言えば、1校に1人学校司書がいるとよいと思うが、現実問題として、どこの学校も学校司書の方と同じような悩みを抱えている。学校の図書館の運営についてかかる労力、時間をつくるのが難しいのが現状。学校としては読書への興味関心を持ってもらう活動は継続して行っている。

委員

ボランティアとして学校図書館に関わっている。中学生が朝読の時間にむさぼるように本を読んでいる様子を見てうれしくなると共に、ゆっくり本を読む時間もない中学生の状況に悲しいような気持ちになることも。ボランティアの立場としては、学校司書が学校図書館にいて、それを補佐する形でボランティアがいる、という形が望ましいと感じている。

委員

読み聞かせについて、父親の膝の上で絵本を読んでもらう、ということの重要性を先日父親参観で話した。また、幼稚園に本を置くと管理の問題も生じるが、子どもが好きで何度も読んだ本がボロボロになっているのを補修するのは喜ばしいことでもある。

委員長

以前の調査等で「お父さんが本を読んでもらった子どもは本が好きという傾向がある」というのを見た。第3次計画の策定に当たっては、しっかり父親も巻き込んでいけるように、と考えるとよい。

委員

特別支援学校は全国的に教室不足の問題を抱えている。現在、教室不足を補うべく、図書館等の特別教室を教室に変えて対応しているのが現状。特別支援学校は小・中学校と違い、図書館の設置基準がないこともあり、環境としてはあまり良くない。今後、増築等により対応できる予定ではあるが。また、児童生徒の障がいの程度によっては自分で読むことが難しいため、読み聞かせボランティア等に協力してもらえるとありがたい。

委員長

特別支援学校での読み聞かせについては特別な配慮が必要では。

委員 確かに、言葉だけでイメージするのが難しいため、パネルシアター等、視覚的な手がかりのある読み聞かせの方が望ましい。

委員 団体登録をすれば、図書館でもパネルシアターや人形劇などを貸出できる。また、特別支援学校についても学校図書館支援センターの支援を受けることが可能。

委員 4か月健診時に来所するのが、母親に加えて父親も増えている。先の話でもあったが、父親の読み聞かせは非常に良い。いろんな保護者の方が来所されるため、絵本に興味を持ってもらうための声掛けが難しい。ただ、幼児期は非常に重要な時期であり、その時期を逃さず、読み聞かせをしてもらうことが大事だと感じている。

委員 保育園では保育士が中心になって読み聞かせを行っている。子育ての場面において絵本の読み聞かせは重要。保育園の園舎を新しくしたこともあり、新しく絵本コーナーをつくり、保護者向けに貸出しを行っている。また、卒園前に子どもたちが小学校見学に行くのだが、その時の感想が「学校図書館にいっぱい本がある!」。幼児期の子どもがもっている本に対する興味関心がある。その後も続いていくとよいと思う。

委員 公民館は社会教育の施設であるため、だれでも来ることができる。そのため、小さい時から公民館に来て絵本に親しむことができる。学校にはボランティアの方が行っており、その機会に本と親しんでいると思われる。今後は、子どもと本の日についてももう少し周知を行った方がよいと思われる。

委員 総合図書館でおはなし会を行っている。赤ちゃんから小学生までのおはなし会をおこなっており、その時に紹介した絵本などはそのあとみな借りていくことが多い。おはなし会で読んでもらった本というのは、もう一度、自分で見たり、読んだりしたい子が多い。先日、一日おはなし会を行った。その時、午前中2回、午後4回のおはなし会を行ったが、その全部に参加した幼い兄弟がいて、びっくりした。おはなし会が好きな子どもがいて心強かった。今は赤ちゃん向けのおはなし会や、小学校高

学年以上の子どもたちへの働きかけが大切だと感じている。

委員

先日、初めてアミカスでの読み聞かせに参加した。今度、九州の書店が集まったイベントで読み聞かせのコーナーを出すことを計画している。10月に予定している。

委員

ブックスタート事業について読書相談員が何か力になれることはないか。ブックスタート事業に関わりたいといっている読書相談員は多い。

委員長

自治体によってはブックスタート事業を図書館とボランティアの協力で行っているところもある。

委員

ボランティアについても入れ替わりがある。ブックスタート事業をやっていくうえで、悩みもあったり、うまくいかないこともある。そういったときに人の話を聞いたり、相談できる相手がいるかないか、は大事。勉強をしていく必要があるが、そういう場で読書相談員の方と協力できると良い。また、ボランティアといっても仕事をもっていることが多く、いつでも都合がつくわけではない。そのため読書相談員の方が手伝ってくると良いと思う。

委員長

研修会などに読書相談員が参加できると良いと思われる。他に意見や質問がなければ本日の議事は終了する。

4 閉会

事務局

※閉会の挨拶、今後のスケジュールについて説明（省略）

終了